

第4回環境研究機関連絡会成果発表会

「広がる環境研究フロンティア」の開催にあたって

独立行政法人国立環境研究所
理事長 大塚 柳太郎

第4回環境研究機関連絡会成果発表会「広がる環境研究フロンティア」の開催にあたり、事務局を代表して一言ご挨拶申し上げます。

今日、私たちが直面しているさまざまな環境問題を解決するためには、個別の専門領域にとどまることなく、多分野を包含した総合的視点から研究を推進する必要性が増大しています。このため、環境に関する研究開発を行っている国立と独立行政法人の研究機関が集まり、平成13年に環境研究機関連絡会を立ち上げました。

本連絡会では、環境問題が複雑化、広域化、多様化していることを踏まえ、その発足以来、各研究機関が研究を効果的、効率的に推進するために、情報交換と連携・協力の拡大を行ってまいりました。平成15年からは、本連絡会に参加している研究機関の研究成果を広く市民の皆様にも知っていただくため、成果発表会を開催してまいりました。4回目となる今回は、「広がる環境研究フロンティア」と題し、4部構成により最新の環境研究の成果を取り上げることといたしました。

第一部「環境汚染から守る技術を開発する」では、環境汚染を未然に防止する技術や汚染された環境を修復する技術に関する研究の成果を報告します。

第二部「環境が持つ機能を理解する」では、環境中で物質がどのように反応・移動するのか、環境の変動が生態系にどのような影響を及ぼすのかなど、環境の機能を理解する研究成果を発表します。

第三部「環境を予測・モデル化する」では、環境への悪影響を防止するため、環境の動態や環境に放出される有害物の運命を予測・モデル化して、最適な対策を検討するための研究成果を報告します。

第四部「地球温暖化の現象を解明し対策を考える」では、地球規模の大問題である地球温暖化対策に関する研究成果を発表します。この問題への取組みには、自然科学的側面、社会科学的側面を含む多角的なアプローチが必要です。今回の発表会では、社会科学的、自然科学的、技術的観点から最新の成果を報告します。

環境研究機関連絡会を構成する各研究機関は、その公的な性格にかんがみ、施設の一般公開や個別のセミナーなどを通じて、研究の状況や成果をお知らせすることに努めてまいりました。しかし、環境研究を進める主要な研究機関が一同に会し、最新の成果を発表しあう機会はなかなかありません。この貴重な機会に、いま何が問題か、これから何が問題になるのか、そして、そのための環境研究はどこまで進んでいるのか、について、市民の皆様幅広くお伝えできればと思っています。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、本成果発表会が環境研究、ひいては環境問題の解決について考えるきっかけとなることを祈念しご挨拶いたします。